

8) 陽夫多神社 (やぶたじんじゃ)

住所：三重県伊賀市馬場 9 5 1
TEL：0595-43-0158

訪問日：2013年4月16日、2014年6月8日

式内社：伊賀國阿拝郡 陽夫多神社 旧県社

主祭神：健速須佐之男命

祭神：五男三女神、天之火明命、火之迦具土神、香香背男神、大物主神
大山祇神、大日靈貴命、宇迦能御魂命、伊邪那伎命、伊邪那美命、速玉之
男命、事解之男命、天兒屋根命、蛭子命、菊理比賣命



石橋と石柱

由緒：当社は延長風土記に「押盾天皇戊午国造多賀連祭之也」とあり、和名抄、伊賀風土記によると伊賀河合郷の総社にして人皇第28代宣化天皇3年（西暦538年）に国中に疫病が流行したので屏息祈願のため伊賀国造多賀連が同年創建したとある。以来病氣平癒の御靈験あらたかなるをもって藩主の崇敬厚く屢々寄進あり、又一般崇敬者の参拝多しと、社記にあり。清和実録に高松神、延長風土記に藪田大明神の社号で記載されている。又古くより「河合の天王さん」「河合の祇園さん」と呼ばれ、氏子崇敬者から親しまれている。

「全国神社祭祀祭礼総合調査 神社本庁 平成7年」



鳥居と狛犬

小川に架かる石橋を渡ると「縣社陽夫多神社」と「郷社陽夫多神社」と書かれた二つの石柱それと大きな二つの石灯籠があり、右手に手水舎がある。阿吽の石の狛犬の後ろの神明造の石の鳥居をくぐると広い境内に出る。境内の右手には「神井」という井戸があり、普段は枯れているが、祇園祭（8月1日）前後の7日間は神水が湧きだしてくるそうである。その少し先にスサノオが詠んだとされる日本最古の和歌「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣作る その八重垣を」を刻んだ石碑が立っている。また、室町時代の国文学者である一条兼良が詠んだ和歌「ゆふかけて猶こそきかめほととぎす手向けの声の高松の宮」の石碑や芭蕉伊賀連衆の一人である山岸半残の句碑「汗かきの氏子あまたや祇園の會」



スサノオの絵



本殿



横穴式石室

および1667年に寄贈された高さ1m59cm、口径92.5cmの伊賀地方で3番目に古い梵鐘がある。横に長い神楽殿の後ろにある石段を登ると割拝殿に着く。壁には色鮮やかなスサノオの絵が掛けてある。また、樹齢600年の輪切りの古代スギが展示してある。流造の本殿の脇には陶器と思われる黄金色の狛犬が配置されている。その他幣殿・社務所・休憩所・参籠舎・祭器庫・鐘楼などがある。また、境内社として本殿左に八柱神社（祭神：大山祇神、火之迦具土神、五男三女神、金山比賣神）がある。拝殿の左手にはスギの大木が2本あり、ヒノキ、クスノキ、モチノキなどの大木やヤブツバキがみられた。境内から約200m南の御旅所には古墳時代後期に築造された横穴式石室や神社の裏山には全長40mの前方後円墳宮山一号墳地、二号、三号の横穴式石室を持つ円墳がある。

御神徳は主祭神健速須佐之男命が自から祓い清めることを実践された神様であることから 古来より「厄病難守護」の信仰が篤く、産業、文学（歌道）の神として 崇敬されている。

主な祭典と神事は祈年祭：二月十八日 裸々おし、例祭：四月二十日 羯鼓踊（文化財）餅まき 少年剣道大会、本祭：八月一日、祇園祭：八月一日、精進祭：七月二十五日、宵宮祭：七月三十一日 花火奉納大会があり、深湯神事では神輿神幸式や願之山踊（文化財）花傘取り、大幟では宵宮祭早朝、長さ三十五米の大幟が各字氏子中から七基奉納される。新嘗祭は十一月二十八日に開かれる。

宝物等：神鏡二面（銅円形）直経二尺銘「正一位 藪田神社平安城住天正九青盛重造之」宣旨（藪田神社正一位文化十四年）、梵鐘一個青銅製径三尺高六尺銘「寛文七年乙未曆三月吉辰鑄造」、懸佛二面青銅製・鉄製、刀剣八振、鎧兜外武具一式